

第4章 計画に向けての課題

みどりの現況、みどりについての市民の意識と意向などの結果を踏まえ、水と緑のまちづくりを推進する計画に向けての課題は、次の5つの項目に整理することができます。

■ みどりの現況と課題 ■

みどりの現況

みどりのネットワーク

- 小平をほぼ一周する小平グリーンロードがみどりの骨格。
- 骨格から内側へのネットワークが弱い。
- 用水路などの資源性が十分に活かされていない。

雑木林や農地等郷土的な資源

- 樹林、樹木、農地が依然として減少を続けている。
- 樹林や用水路が生活から遠くなり、認識や意識が変化した。
- 郷土的な資源が少なくなり、小平らしさが失われつつある。

市街地のみどり

- 市街地のみどりは思いのほか少ない。
- 目に映るみどりが少ない。
- まとまったみどりは市の外周部に多い。
- 街道沿いなどに郷土性の高いみどりが多い。
- 公園は多いが、あまり使われていない公園がある。

みどりの質

- 樹林地の管理が行き届かず、質が低下しつつある。
- みどりが生きいきとしていないことがある。
- 公園などみどりの空間が使いにくいことがある。

みどりと市民

- みどりには公共的な役割がある。
- みどりの管理が難しい。
- みどりへのかかわり方や意識が変わってきた。
- 活動者は多いが、必ずしも連携が図られていない。

計画に向けての課題

水と緑のネットワークを充実する

- 小平グリーンロードを軸に、市民が安全で気持ちよく歩けるネットワークを形成する。
- 市内を網の目のように覆うみどりのネットワークを形成する。
- 公園や緑地を相乗的に活用して、面的なひろがりのあるみどりの魅力を引き出す。

みどりを保全する

- 樹木、雑木林、屋敷林、農地などの市民共有の財産を、できるだけ多く保全する。
- 身近な水と緑の資源である用水路をうるおいをもたらす資源として再生する。
- 農地・屋敷林など、郷土の歴史を伝える資源を保全する。

みどり豊かなまちを創る

- 見えるみどり、身近なみどりを増やして、都市生活の快適性と防災機能の向上を図る。
- 身近なみどりの空間に郷土の歴史やふるさつを感じさせるみどりを創る。
- 特色ある公園やまちかどの広場など、利用しやすい、ほっとする空間を身近なところを増やす。

みどりの質の向上を図る

- みどりがもたらす効果を大きく発揮することを視点にしたみどりづくりを行う。
- 今あるみどりを市民共有の財産として、小平らしい姿へ育てる。
- 市民生活の快適性と生物的多様性が両立したみどりづくりを実践する。

参加・協働の仕組みをつくる

- みどりを市民共有の財産として、市民が育てる。
- みどりのまちづくりを担う市民ネットワークをつくる。
- みどりとのかかわる機会や、みどりを良く知る機会を増やす。

(1) 《計画に向けての課題 - 1》 水と緑のネットワークを充実する

小平のみどりは、多くの市民が大切にしている小平グリーンロードに代表されます。

小平をほぼ一周する小平グリーンロードは、みどりに囲まれた小平を形成する最も重要な骨格となっています。より快適でみどり豊かな小平をめざして市内のみどりのネットワークで網の目のようにするためには、まず、市の中へと入っていく新たな骨格となるネットワークの形成に努めることが必要です。

小平を小平グリーンロードだけではなく、東西にも、南北にも安全で気持ちよく歩けるように小平グリーンロードを補完する新たなみどりの軸の形成が望まれています。

(2) 《計画に向けての課題 - 2》 みどりを保全する

市民が大切に感じている雑木林、屋敷林、農地などの小平のみどりは、古くは江戸時代の新田開発に由来しています。これまでの約350年もの間、それぞれの地域の生活の営みとともに培われてきたものです。このようなみどりは、今までも、そしてこれからも小平のまちづくりにとって欠くことのできない要素であり、市民共有の財産として適切に保全し、次世代、次々世代と引き継いでいくことが大切です。

小平市は全域が市街化区域であり、市名の由来からわかるように平坦な地形で暮らしやすいことや、都心に比較的近いことから、住宅都市として戦後大きく都市化が進みました。この過程で雑木林、屋敷林、農地等が減少しており、今後も減少が続くことが予想されることから、このようなみどりを永続的なみどりとして保全することが求められています。しかし、現行の法制度においては、必ずしも機動的な対応が難しい場合があることが広く指摘されています。小平市では、保全に緊急性を必要としている樹林地等の保全手法を検討し、必要なところから対策を実施していくことが望まれます。



彫刻の谷緑道 / 小川用水 (小川町一丁目)



雑木林 (上水新町一丁目)

(3) 《計画に向けての課題 - 3》 みどり豊かなまちを創る

小平にはみどりの骨格となっている小平グリーンロードや中央公園、都立小金井公園などの規模の大きい公園とともに、雑木林や農地もあり、みどり豊かだと感じている市民も比較的多いようです。しかし、市街地にはそれほど多くのみどりはなく、都市生活の快適性を高めるとともに防災機能の向上を図るためには、身近なところにみどりを増やしていく必要があります。

日常生活のなかで最も利用する空間は道路などの移動空間です。道路は公共空間ですが、道路沿いは住宅の庭や建物外壁など私有空間です。この道から見える部分の私有空間は、道路と一体となってまちのイメージを形成する大切な空間であり、道路とともに沿道部のみどりを増やしていくことが必要です。さらに小平では、東京街道、鈴木街道、青梅街道などの旧街道沿いが風致地区に指定されており、東京都風致地区条例により建築物の建築や樹木の伐採などに許可が必要であったことから、武蔵野の郷土的な風景を伝える屋敷林が今なお残っています。これらのみどりを核にして地区の特色ある緑化を進めていくことも大切です。

このように、道沿いに花や樹木が増えると、実感としてみどりが増えたことがわかるため都市緑化の手法として大変有効であり、小平のみどりを増やしていく視点として重視することが望まれます。

(4) 《計画に向けての課題 - 4》 みどりの質の向上を図る

みどりは量の確保とともに、どのようなみどりを確保していくのかという質の視点も重要です。小平のみどりは、人との関わりの少ない山奥にある自然のみどりとは違い、人の生活との調和を保ちながら、長い年月をかけて形成されてきたものです。しかし、時代の推移とともに、みどりと人との関わり方が変わったために、雑木林、屋敷林、用水路などは大きくその姿を変え、かつて見られたものとは違う動植物が多くなるなど、武蔵野らしいみどりの質が失われつつあります。

小平のみどりは、原生的な自然のみどりとは異なり、長い年月に渡り人との関わりを保つ中で成立し、維持されてきたみどりです。人との関わりの中で成立したみどりは、原生的な自然のみどりとはまた違った豊かな生きものが見られるものであり、里山のみどりと同様に生物多様性が高いものです。

みどりは暮らしにうるおいと安らぎ、恵みをもたらすものです。小平の気候風土と歴史を踏まえてみどりのあり方を考え、快適な市民生活と生物的な多様性が両立するように育て、小平の個性が発揮されるように再生し、活かしていくという視点が必要です。



小川用水（美園町一丁目）

(5) 《計画に向けての課題 - 5》 参加・協働の仕組みをつくる

みどりは小平市の環境やまちづくりにとって欠かせないものであり、その存在は公共的な性格を有しているといえます。このため、みどりは市民の共有財産ということもできます。自分たちの財産は自分たちで大切にしていける必要があることからわかるように、小平のみどりはすべての市民が等しく担っていくことが大切となります。

さらに、小平グリーンロードを中心にみどりや環境に関わる活動をしている市民団体やボランティアが多くあり、その活動内容は多様な分野にわたっています。また、雑木林の保全や身近な公園などの管理運営に取り組みたいと希望している団体や市民も多くあります。このような市民の力を集め、小平のみどりを守り、創り、育てていく、大きなネットワークの形成がこれからの時代には必要です。

これらのためには、はじめにみどりのことを良く知る必要があります。市や熱心な市民にだけ任せるのではなく、すべての市民が等しく行動していけるように、みどりや環境の重要性について学び、小平のみどりを理解し、そして行動していくことが望まれます。



コスモス畑（小川西町五丁目）



保存樹林の保全活動

第5章 水と緑のまちづくりの目標とみどりの将来構造

みどりは、私たちの暮らしに快適さや安心をもたらす、豊かなものにしてくれます。このみどりを市民の普段の暮らしだけでなく、さまざまな都市活動と調和を保ちながら、守り、育て、創っていくことが大切です。

誰もが大切だと思ふみどりですが、一人ひとりが思い描くイメージは違います。具体的にどのようにみどりを守り、増やし、育てていけばよいのか、そのイメージを多くの人が共有して、同じ気持ちでみどりのまちづくりを進めていくことが大切です。

ここでは、水と緑のまちづくりの方針として、目標（将来イメージ）と、行動の方向性となる基本方針、そして、目標像となるみどりの将来構造図を示しました。

1 水と緑のまちづくりの目標と基本方針

(1) 水と緑のまちづくりの目標 - みどりの将来イメージ -

市内は、7つの駅からなる市民生活圏を全長21kmの小平グリーンロードがむすんでおり、歩いて一周することができます。

そして、小平グリーンロードを起点にして、小さな用水路沿いの散策路や畑の脇の小径をめぐりながら、市内のどこにでも歩いて行くことができます。

この歩けるまち、用水路のあるまち、緑の豊かなまちという特徴をさらに活かして、花と緑を楽しみ、水を巡りながら気持ちよく歩くこと。こんな姿が実現したほんわかとした快適なまちをめざします。

このようなみどりの将来イメージを、水と緑のまちづくりの目標として次のように設定しました。

水と緑のまちづくりの目標

—小平市のみどりの将来イメージ—

やさしく歩ける水と緑の美しいまち

「やさしく歩ける」のもつ意味とは

「やさしく歩ける」には、たくさんの意味が込められています。高齢者も障がい者も、子どもも大人も、そして、外から訪ねてくる人も、あらゆる人が花と緑にふれあいながら気持ちよく歩けるという意味とともに、人がやさしい気持ちをもてるまち、人と人がやさしさにあふれ、ふれあいを大切にするまち、生きものを大切にするやさしさをもつまちなど。「やさしく歩ける」をキーワードにして、水と緑の美しく暮らしやすいまちを創っていくという願いをこめています。

(2) 基本方針

水と緑のまちづくりの目標を実現していくためには、どのような行動をとればよいのか。基本方針は、行動に向けての考え方を示すものです。

みどりの基本計画では、次の5つの基本方針を設定しました。

基本方針1 みどりをつなげる

小平をほぼ一周するみどりの帯である小平グリーンロードが、みどりの骨格となっています。この小平グリーンロードを起点に南北に結ぶみどりの帯を形成するとともに、市民の身近なところまでつながるみどりのネットワークを形成して、市内を網の目のようにみどりでつないでいきます。

基本方針2 みどりをいつくしむ

小平には、玉川上水と多くの用水路、新田開発時から続く雑木林、屋敷林や、農地、寺社、史跡と一体となったみどりなど、歴史や自然を感じることでできるみどりがたくさんあります。このような武蔵野の面影を残すみどりを大切に、次代へと引き継いでいきます。

基本方針3 みどりをふやす

みどりが身近なところに多くあると、暮らしに豊かなうおいをもたらしてくれます。誰もがみどりが増えたと実感できるようにするには、見えるみどりを増やすことが大切です。市民・事業者・行政がともに身近なところからみどりを増やしていき、市内のどこからでもみどりが見えるようなまち、普段の暮らしの中でみどりとふれあえるまちをつくりまします。

基本方針4 みどりをそだてる

みどりは季節の移ろいにつれて装いを変え、年月とともに育っていきます。みどりを守り、将来へとつなげていくには、きちんとした手入れをして育てていくことが必要です。大切に手入れされたみどりは、自然のままに委ねるよりも、人に快適な姿となり、多くの動植物を育みます。今あるみどりの質を高めて活かし、武蔵野らしい風景を維持しながら、人にも、多くの生きものにもやさしい質の高い快適なみどりとして育てていきます。

基本方針5 みどりをいかす

小平のみどりは、小平で暮らしている市民のためにあります。そして、みどりがもたらす豊かなうおいは、すべての市民が受けています。この誰もが大切だと思っているみどりを、市民が自ら育て、市民が主役となって守り、人の輪をはぐくんでいく仕組みをつくっていきます。

2 みどりの将来構造

(1) みどりの将来構造の考え方

小平市のみどりの将来イメージを実現するために、みどりの現況と課題を踏まえて、水と緑のネットワーク、みどりの拠点、みどりのゾーンによる、みどりの将来構造を設定しました。

水と緑のネットワーク

小平のみどりの大きな特徴は、小平をほぼ一周している小平グリーンロードが、しっかりとした骨格として存在していることにあります。この小平グリーンロードから内側へとみどりの軸を伸ばしていくことで、暮らしに身近なところでみどりの息吹を感じることができるようになります。この骨格を基点にみどりの軸で結び、水と緑のネットワークを有機的に形成していきます。

みどりの拠点

水と緑のネットワークとともに、雑木林がある場所、公園など人々が集える場所など、みどりの^{かなめ}要となっている拠点を活かすことも大切です。多くの市民が日常的に利用し、関わることで、育ち、活かされていく、みどりの拠点づくりを進めていきます。

みどりのゾーン

小平市は都心近郊の住宅・産業都市として発展しながらも、農地、屋敷林、雑木林などの郷土的なみどりが多く残っており、都市的な生活と近郊農業が隣り合って共存していることが特徴のひとつです。農地が多いところ、屋敷林が多いところ、住宅地となっているところなど、それぞれの特性に応じて、まちのゾーン区分を行い、みどりのまちづくりを進めていきます。



中央公園のサクラ（津田町一丁目）



大門橋緑道 / 鈴木用水（花小金井南町一丁目）

(2) みどりの将来構造の内容

水と緑のネットワーク、みどりの拠点、みどりのゾーンは、それぞれ次のような内容で構成しています。

水と緑のネットワークの構成

水と緑のネットワークは、小平グリーンロードと比較的広い道路を位置づけたみどりの骨格、みどりの軸、みどりの補完軸と、市内を広く流れる用水路を中心とした水のネットワークの4つの要素で構成します。

1	みどりの骨格
	<ul style="list-style-type: none">● 玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道から構成される小平グリーンロードは、市外とも連続しながら小平をほぼ一周し、水と緑のネットワークの骨格として機能しています。● この小平グリーンロードをより強化するために、南北を結ぶみどりの骨格として、あかしあ通りと府中街道を位置づけ、市街地にみどりの効果をもたらす機能を期待します。● これらをシンボリックなみどりの骨格と位置づけ、さらに魅力的な空間づくりを進めていきます。
2	みどりの軸
	<ul style="list-style-type: none">● みどりの骨格からみどりの軸を伸ばし、まちの中でみどりの魅力を発信する基本的なネットワークとして位置づけます。● 東西方向には青梅街道、鈴木街道、東京街道といった歴史ある街道、南北方向には比較的幅員が広く道路の緑化と沿道の緑化が期待できるけやき通り、新小金井街道を位置づけ、みどりの充実を図ります。
3	みどりの補完軸
	<ul style="list-style-type: none">● 市民が日常的に利用する地区内の主要な道路や、散策路としてよく使われている道路を位置づけます。● 市内のみどりを有機的につなぐ、網の目の役割を持ちます。● 歩く人にやさしいみどりのネットワークとなるように、みどりの充実を図ります。
4	水のネットワーク
	<ul style="list-style-type: none">● 歴史的な資産であり、うるおいのあるまちづくりのために積極的な活用が望まれる用水路を、水のネットワークとして位置づけます。● 親水緑道として水に親しめる区間、みどりの帯を形成する区間など、それぞれの特性に応じてみどりの充実を図ります。

みどりの拠点の構成

水と緑のまちづくりの中心的な役割を担うみどりの発信拠点、みどりの空間として機能しているみどりの主要拠点とみどりの身近な拠点に加えて、将来的に公園などとしての整備を検討するみどりの将来拠点の4つの要素で構成します。

1	みどりの発信拠点 <ul style="list-style-type: none">小平グリーンロード沿いに、水と緑のまちづくりをけん引する役割を担う、総合的な情報発信拠点を三箇所位置づけます。<ul style="list-style-type: none">小平ふるさと村付近：花小金井駅・小平駅からも近く、多方面からの来訪者に便利な拠点として位置づけます。じょうすいこばし付近：玉川上水の市内最上流部を、西の玄関口として位置づけます。中央公園付近：中央公園は最も市民の利用が多いみどりの拠点です。鷹の台駅を利用しての玉川上水散策の起点にもなり、小平を代表する拠点として位置づけます。
2	みどりの主要拠点 <ul style="list-style-type: none">スポーツ、レクリエーションや環境保全、防災機能などが期待できる公園として、萩山公園、東部公園、都立小金井公園、東京都薬用植物園、都立小平霊園などを、みどりの主要拠点に位置づけます。それぞれの空間の特性に応じて、みどりの効果を高めていきます。
3	みどりの身近な拠点 <ul style="list-style-type: none">市民の誰もが歩いていける距離にあり、地域のレクリエーションや交流、憩いの場となる比較的小規模な公園などを、身近な拠点に位置づけます。雑木林、屋敷林、社寺林など、自然や歴史を伝える樹林地を位置づけます。
4	みどりの将来拠点 <ul style="list-style-type: none">将来的に、みどりの拠点となるように位置づけたものです。都市化の動向などを踏まえて、計画的に公園などの整備を図ることを検討する場所です。

みどりのゾーン

小平のふるさとの歴史を伝えるゾーンとして、ふるさと環境保全ゾーンと郷土景観重点保全ゾーン、比較的農地が多い市街地である農住環境育成ゾーン、樹林地がまとまっている樹林環境育成ゾーン、主に住宅地からなる市街地環境育成ゾーンの5つのゾーンから構成します。

1	ふるさと環境保全ゾーン <ul style="list-style-type: none">● 街道沿いの屋敷林や雑木林などが多い場所を、ふるさとの環境を伝えるゾーンとして位置づけました。● 郷土的な歴史を保ち育む、みどりのまちづくりを進めていきます。
2	郷土景観重点保全ゾーン <ul style="list-style-type: none">● ふるさと環境保全ゾーンの中でも、特に郷土性が高いゾーンを位置づけました。● 小平らしさを後世へと伝えていくために、歴史を語り継ぐことが必要とされるゾーンです。● 屋敷林や雑木林、南北に地割された短冊形の農地、用水路などを一体的に育てていく、みどりのまちづくりを進めていきます。
3	農住環境育成ゾーン <ul style="list-style-type: none">● ふるさと環境保全ゾーンと玉川上水沿いの屋敷林、農地、用水路などがあるゾーンを位置づけました。● これからも農地と共存する環境を維持し、活かしながら、都市的生活と産業としての農業が調和したみどりのまちづくりを進めていきます。
4	樹林環境育成ゾーン <ul style="list-style-type: none">● 規模の大きな雑木林がまとまっているゾーンを位置づけました。● 樹林地を維持し、より質が高まるように育てていく、みどりのまちづくりを進めていきます。
5	市街地環境育成ゾーン <ul style="list-style-type: none">● 主に住宅地などを中心とするゾーンを位置づけました。● より長く住みたいまちとなるように、暮らしに身近なみどりの創出を中心としながら、みどりのまちづくりを進めていきます。

